

令和4年度採用

群馬県公立学校教員選考試験問題

中学校（美術）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

— 注 意 事 項 —

- 1 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから4ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 4 「終了」の指示があったら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と解答用紙の両方を机の上に置いてください。
- 5 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 6 この問題用紙は、持ち帰ってください。

1 次の の①～③の条件に従って、スケッチを描きなさい。また、立体感が伝わるようにどのような表現の工夫をしたか書きなさい。

- ① 「消しゴムをつまむ手」というテーマで、ポーズを決めること。
 - ② 消しゴムをつまむ左右どちらかの手と消しゴムを描き、その他のものは描かないこと。
 - ③ 自分の手（手首から先）を立体感が伝わるように写実的に描くこと。
- ※ 開始から10分経過の合図で、描いている途中でも問題2に進む。
問題2～5を解答し終えたら、再び問題1に戻って描いてもよい。

2 第3学年において、現在の自分を見つめ、未来の自分に思いをはせながら、表現方法を工夫して、自画像を水彩画で表す題材を設定した。このことについて、次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) 本題材において、生徒が内発的で前向きな主題を生み出せるようにするためには、どのような題材名が適切であるかを考え、書きなさい。

(2) 題材の導入において、下の表に示した美術作家の自画像A～Cを提示し、比較しながら鑑賞することを通して、表現の意図と工夫の関係性について考えさせたい。後の①、②の問いに答えなさい。

A	B	C

① A～Cの作者を答えなさい。

② 生徒に考えさせたい「表現における意図と工夫の関係性」を書きなさい。

(3) 水彩絵の具には、ポスターカラーやアクリル絵の具など、様々な種類があるが、本題材において、アクリル絵の具を使用するよさについて2つ書きなさい。

(4) 授業の終末において、タブレット端末を用いて、自分の作品を写真に撮り、気付いたことや考えたこと、次時に取り組みたいことなどを書いて記録する活動を設定した。この活動を設定した意図を書きなさい。

3 第1学年において、自然物や日用品から形や色彩を工夫した模様を考え、コースターやブックカバーなど、生活を楽しむものをつくる題材「生活を彩る模様」を設定した。このことについて、次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) 題材の導入で、様々な模様を鑑賞する活動を設定した。後の①、②の問いに答えなさい。

図1

図2

図3

図4

図5

図6

① 図1の模様の名称を書きなさい。

② 図1～図6の模様を並べて提示することとした。このように提示することで、造形的な視点を基に生徒に気付かせたいことは何か、書きなさい。

(2) 次の文章は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編」から、本題材に関わる部分を一部抜粋したものである。A、Bに当てはまる言葉を書きなさい。

(3) ブックカバーを制作している生徒が、つくりたい模様のはんこを作成することとした。はんこを使用するよさとして、どのようなことが挙げられるか書きなさい。

(4) 本題材の構想を練る活動でタブレット端末を活用することとした。この活動でタブレット端末を使うことのよさを、2つ書きなさい。

4 第1学年において、群馬県立近代美術館所蔵の宮脇愛子の立体作品「うつろひ」(図1)を鑑賞し、友達と話し合いながら、「私たちのうつろひ」をつくったり見比べたりして、見方や感じ方を広げる題材「うつろう形と心」を設定した。このことについて、後の(1)～(3)の問いに答えなさい。

図1

(1) 本題材において、見方や感じ方を広げるとは、どのような生徒の姿を想定するか、具体的な生徒の姿を書きなさい。

(2) 題材の展開において、友達と話し合いながら、

図2

図2のような「私たちのうつろひ」をつくり、タブレット端末を使って様々な角度から撮影した写真と、宮脇愛子の立体作品「うつろひ」の写真とを見比べながら話し合う活動を設定した。次の①、②の問いに答えなさい。

① つくる際に使用する線材を、ステンレススチールの針金の他に、同じ太さのスチール針金とアルミ針金を用意した。この意図を書きなさい。

② 見比べながら話し合う活動を設定した意図を書きなさい。

(3) 題材の導入において、個人で鑑賞し、初発の感想をワークシートに記述する活動を設定した。
また、題材の終末においても導入と同じように、個人で鑑賞し、感想をワークシートに記述する活動を設定した。この学習効果について書きなさい。

5 第2学年において、絵と文字を組み合わせたり、文字の形や色彩を工夫したりして、楽しく伝える文字をデザインする題材「絵文字で伝えよう」を設定した。生徒に題材の見通しをもたせるために提示する参考作品を、次の①～③の条件に従って描きなさい。


- ① デザインをする文字は「福」とすること。
- ② 絵と文字を組み合わせたデザインとすること。
- ③ 鉛筆の濃淡のみで表現すること。

美術 解答用紙	2枚中の1	受験番号		氏名	
---------	-------	------	--	----	--

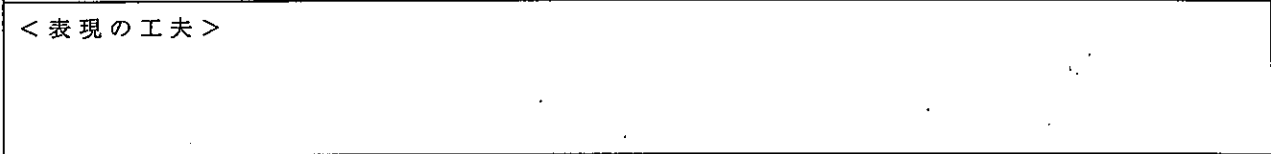
(4年)

1

<スケッチ>



<表現の工夫>



2

(1)				
(2)	①	A	B	C
	②			
(3)				
(4)				

美術 解答用紙	2 枚中の 2	受験番号		氏名	
---------	---------	------	--	----	--

(4年)

3

(1)	①			
	②			
(2)	A		B	
(3)				
(4)				

4

(1)			
(2)	①		
	②		
(3)			

5

↓ 枠の中に描く

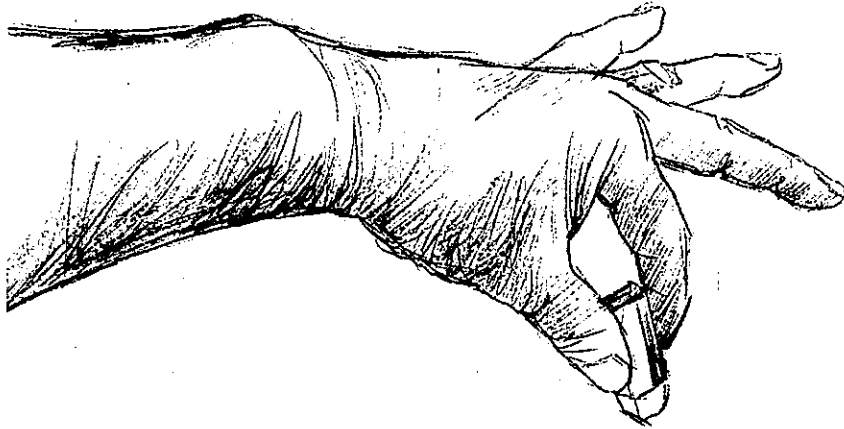
※空いているところにスケッチやメモをかいてもよい。

以下はあくまでも解答の一例です。

美術 解答用紙	2 枚中の 1	受験番号		氏名	
---------	---------	------	--	----	--

(4 年)

1 <スケッチ>



(20 点)

<表現の工夫>

- ・線の方向や重なりなど、鉛筆のタッチを工夫して表現した。
- ・鉛筆の筆圧を工夫し、線の濃淡を生かして表現した。
- ・明暗の差を3段階程度に分けて、陰影を表現した。 など

(5 点)

2

(1)	将来の私から、今の私へのエール、自分との対話 など			(10 点)
(2)	①	A フィンセント・ファン・ゴッホ (3 点)	B 松本俊介 (3 点)	C パブロ・ピカソ (3 点)
	②	自分の思いや意図、主題によって、水彩絵の具の使い方や、表現方法が異なること。 など (11 点)		
(3)	乾くと耐水性になるので、絵の具を塗り重ねることが容易である。			
	油絵のような厚塗りや、透明感のある塗り方など、多彩な表現が可能である。 など (10 点)			
(4)	生徒が、自分の作品の写真を基に、作品の変化を確認しながら、自分が表したことや工夫したことなどを振り返り、自己の学びを自覚するとともに、次時に取り組みたいことなどの見通しをもって、自らの学びを調整しながら制作することができるようにするため。 など			(10 点)

以下はあくまでも解答の一例です。

美術 解答用紙	2枚中の2	受験番号	氏名	(4年)
---------	-------	------	----	------

3	(1)	①	青海波（青海波文様、青海波模様） （10点）
		②	模様には、同じ形の模様を繰り返し使っているものとそうでないものがあること。模様をデザインする際、モチーフを単純化したり特徴を強調したりすることが大切であること。 など （10点）
	(2)	A	条件 （5点）
		B	主題 （5点）
	(3)	転写が容易である。容易に試せる。同じ模様を繰り返し配置することができる。模様の配置を自由に換えることができる。色を自由に換えることができる。 など （10点）	
	(4)	身の回りの自然物や日用品、デザインした模様の画像を取り込み、形や色彩を自由に換えることができる。形の変形や色彩変更など、何度でも繰り返し行うことが容易である。 など （10点）	

4	(1)	「うつろひ」の造形的なよさや美しさ、作者の表現の意図と工夫、新たに見付けたことなどについて、話したり記述したりしている姿。 など （20点）	
	(2)	①	線材の種類によって、強度や曲がり方などの特性が異なるため、作品を形づくる曲線が変わることに気付けるようにするため。 など （10点）
		②	自分でつくった体験を基にして、作者の制作の様子や、制作の意図とつくった形との関係性について、具体的に想像しながら感じ取れるようにするため。 など （10点）
(3)	作品を鑑賞し、自分が感じ取ったことが、学習を通してどのように広がったかについて自覚できるようにするため。 など （10点）		

5

↓ 枠の中に描く

※空いているところにスケッチやメモをかいてもよい。（25点）